

2023 年度 英語科 シラバス

教科	英語	科目	英語	単位数	5	年次/コース	SS コース
使用教科書	「NEW HORIZON English Course III」						
副教材など	新中学問題集 発展編 DataBae3300						

1. 学習の到達目標

<p>●科目について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語は体育と同じ、実技教科です。声を出して手を動かして、コミュニケーションを意識しながら、楽しんで取り組みましょう。 ・「音読&暗唱」 <p>語学はこれに尽きます。書く時も、読む時も「音」を意識して取り組みます。「スラスラ音読」ができるようたくさん練習しましょう。</p> <p>●コンピテンシーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」「話すこと（発表）」「話すこと（やりとり）」「聞くこと」「書くこと」どの領域も英語学習においては欠かせません。どの領域を伸ばすための活動か、常に意識をして取り組みましょう。

2. 学習方法について

<p>●授業中において</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「声に出すこと」を意識して音読練習をしましょう。 ・ペアワークやグループワークを通して、協働学習に取り組みましょう。 ・「何のためにこの活動をするのか」を常に念頭に置いて、授業に取り組みましょう。 <p>●家庭学習において</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日1時間程度、英語の学習に取り組みましょう。学習内容は授業内で指示されます。 <p><内容例>ラジオ英語15分、教科書の復習、新中間、小テスト勉強、スタディサプリングリッシュなど</p>
--

3. 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	①：知識・技能	②：思考・判断・表現	③：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<p>【知識】 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p>【技能 聞くこと・読むこと】 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた（話された）短い文章等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。</p> <p>【技能 話すこと・書くこと】 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話したり、書いたりする技能を身に付けている。</p>	<p>【聞くこと・読むこと】 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題についてはっきりと書かれた（話される）文章を聞いて、必要な情報や概要、要点を捉えている。</p> <p>【話すこと・書くこと】 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話したり、書いたりしている。</p>	<p>授業や学びに対して積極的である。</p> <p>【聞くこと・読むこと】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手（書き手）に配慮しながら、主体的に英語で話される（書かれた）ことを聞こう（読もう）としている。</p> <p>【話すこと・書くこと】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて書こう（話そう）としている。</p>
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・小テスト ・単元テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・音読課題 ・パフォーマンス課題/テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ英語シート ・授業ノート ・授業中の取り組み状況 ・音読課題 ・パフォーマンス課題/テスト ・宿題 ・スタディサプリングリッシュ ・新中学問題集 ・リフレクションシート

上に示す観点・評価方法に基づいて、各観点で評価し、学期末に当該学期の観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。また、学年末に年度を通しての観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)及び評定(1~5

の5段階)にまとめます。

4. 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
			①	②	③		
1 学期	Unit 2	現在完了形 (完了/継続 用法) 現在完了進 行形	○	○	○	・現在完了形(完了用法)を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・現在完了形(完了用法)などの理解をもとに、すでに終えたことやまだ終えていないことについて、理解したり伝え合ったりできる。	3.評価方法を参照
	新中間 第8章 第9・10章	受動態 現在完了形	○ ○	○ ○		・受動態、現在完了形を用いて整序英作ができる、標準レベルの長文を理解できる。	
	Unit 3	It is ... (for +人など) +to, let [help]+人な ど+動詞原 形 want+人な ど+to	○	○	○	・〈It is ... (for+ (人など)) +to〉やSVOCのCに不定詞や原形不定詞がくる文の形・意味・用法を理解している。 ・〈It is ... (for+ (人など)) +to〉ややSVOCのCに不定詞や原形不定詞がくる文などの理解をもとに、自分たちにとって大切なことなどについて理解したり伝えたりできる。	
	Unit 4	間接疑問文 SVOO (what 節)	○	○	○	・間接疑問文やSVOO (what 節)の形・意味・用法を理解している。 ・間接疑問文やSVOO (what 節)などの理解をもとに、どこにあるか、どのように行動するかなどについて知っているかどうかを、理解したり伝えたりできる。	
	新中間 第11,12章 第17章	不定詞(1)、 (2) 間接疑問文	○ ○	○ ○		・不定詞、間接疑問文を用いて整序英作ができる、標準レベルの長文を理解できる。	

2 学 期	Unit 5	名詞を修飾する文 関係代名詞 who 関係代名詞 that [which]	○	○	○	・名詞を修飾する文（接触節）、関係代名詞 who、that、which の形・意味・用法を理解している。 ・名詞を修飾する文（接触節）、関係代名詞 who、that、which などの理解をもとに、言葉に詳しい情報を加えて説明できる。
	新中間 第 15 章	関係代名詞 (1)	○	○		・関係代名詞を用いて整序英作ができる、標準レベルの長文を理解できる。
	Unit 6	仮定法 (I wish I could [had]) 仮定法 (If+主語+were)	○	○	○	・仮定法 (I wish I could [had] ….) を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・仮定法 (I wish I could [had] ….) などの理解をもとに、現実とは異なる願い事を理解したり伝えたりできる。
	新中間 第 18 章	仮定法	○	○		・仮定法を用いて整序英作ができる、標準レベルの長文を理解できる。
3 学 期	高校学習内容		○	○		・高1レベルの教科書を用いて読んだり聞いたりし、理解できる。